

みんな違って、みんなおかしい(笑)を当たり前



マナビのWA 代表 矢野 良太さん(写真左)



「誰かにとつての活躍の場であり、逃げ場でもある、家庭や学校、職場とは別の第3の居場所として、マナビのWAは存在しています」。そう話すのは、マナビのWA代表の矢野良太さん。教員として働く傍ら、休みの日は一市民として地域に関わる活動にいそしみます。マナビのWAはコロシアムに登録している市民活動団体で、毎月第3土曜日の午後2時から、福祉関連施設のあけびの実の一角で、子どもから高齢者まで幅広い年代の人が集まる地域の多世代交流の場です。ゲームやクイズなどのレクリエーションを行うなど、それぞれがやりたいことを持ち寄りながら、自由な活動を通してコミュニケーションを図っています。

矢野さんが第3の居場所を始めたきっかけは、高校2年生の頃の出来事。当時仲が良かった友達に自閉症の妹を馬鹿にされたことで喧嘩になり、学校に行きづらくなってしまう。妹のことだから家族にも話せず、しばらく休んでいました。そのとき、習い事が一緒の友達が話を聞いてくれて、支えてくれました。家族でもなく、普段顔を合わせる高校の友達でもない、第3の誰かという存在にすぐ救われた経験があったので、そんな第3の居場所となるような場を作りたいとの思いを社会人まで持ち続け、2017年にマナビのWAを立ち上げます。

「それぞれの地域をフィールドにして、さまざまな形の居場所づくり活動が広がってほしい」との思いで5年間活動を続けてきた矢野さん。その思いに共感してくれる人はたくさんいます。「参加者の中には、退職を機に自宅の一室を月1回開放して、居場所づくりの活動を始めてくれた人もいました」とそれぞれの地域で居場所づくりの輪が広がっていることへの喜びを話します。

矢野さんが大切にしているキャッチコピー「みんな違って、みんなおかしい(笑)」。それぞれがそれぞれの違いを面白おかしく受け止め、それが当たり前前の中になってほしいとの思いが込められています。「みんな違って、みんなおかしいんだけど、最後はみんな笑顔になる」という意味を込めて最後に(笑)を付けました」と笑顔を見せます。

今後について「人はみんな、いろいろな面を持っています。人と人が交わる中で、自分にもないものを受け入れる心を育てて、他人への理解が地域の交流の中で自然に生まれる流れをつくっていきたくです」と目を輝かせる矢野さん。今後も誰かの第3の居場所としてマナビのWAの活動を続け、地域に多世代交流の輪を広げていきます。



▲手作りのクイズに挑戦する子どもたち

cover

今年もついに暑い時期が到来しました。夏の風物詩といえば、海水浴・プール・お化け屋敷・花火大会などが思い浮かびますね。今号の表紙は、大府みどり公園のじゃぶじゃぶ池で楽しそうに遊ぶお子さん。皆さんはこの夏、どこにお出掛けしますか。

